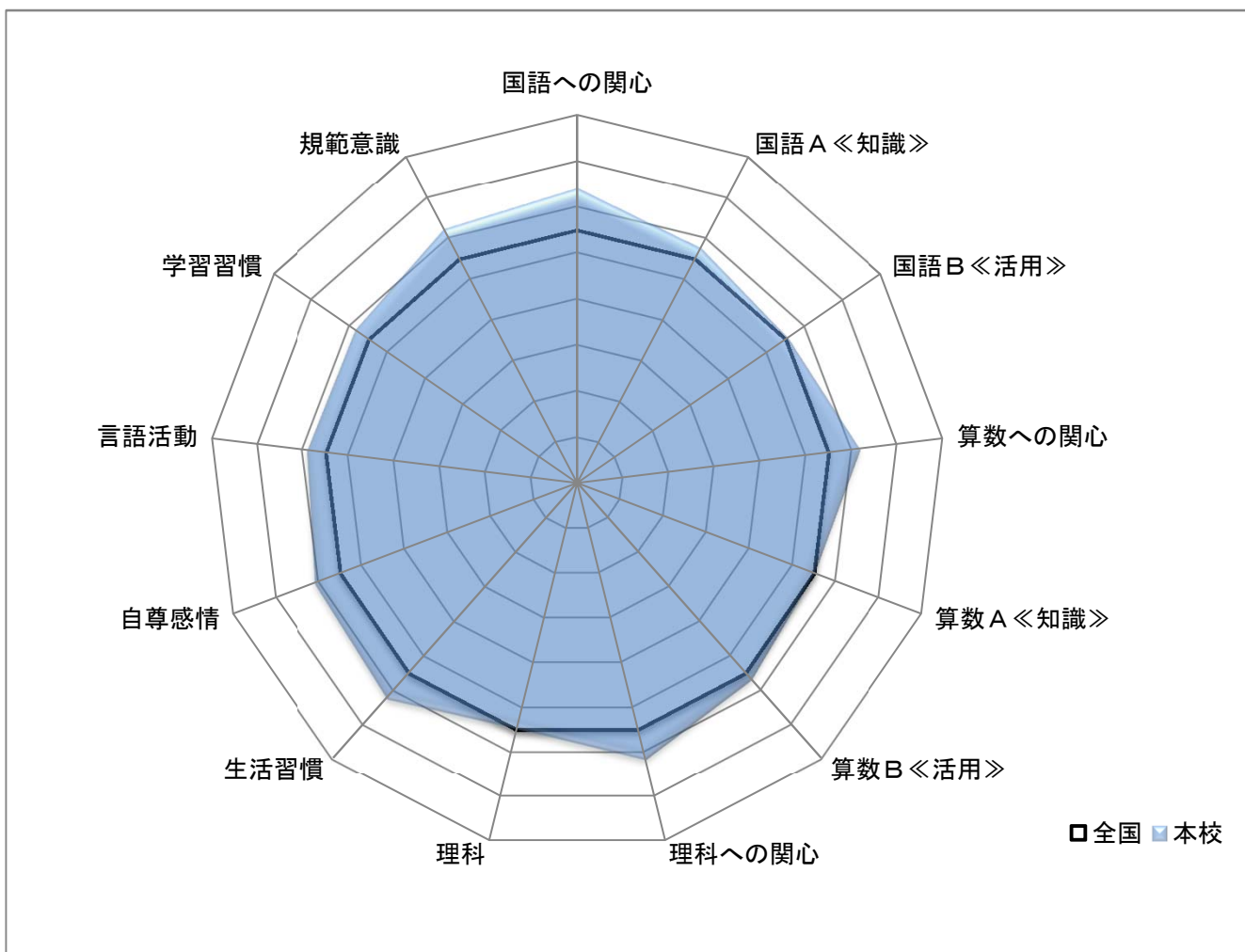




《現状把握》

- ・国語，算数，理科の成績は全国平均のレベルだが，各教科に対する関心はどれも高い。
- ・児童の生活習慣，自尊感情，言語活動，学習習慣，規範意識は，多少の差はあるものの，全国平均を上回っている。
- ・教科学力のスコアにおいては，国語と算数の両教科について，A問題，B問題共に全国平均以上でバランスのよい状況であることから，基礎的な知識・技能の学びと活用に関する学びのバランスがとれているといえる。

《授業改善のポイント》

- ・全般的に見ると，教科の基礎的な学力において一定の成果を上げているが，児童の知識・技能を活用する力を更に伸ばす必要があることが分かる。また，児童の学習への関心は高いので，その長所や自尊感情の高さを失うことなく，生活・学習習慣を定着させることや，学習意欲を喚起するための，教材や活動の工夫や，明確な目的意識をもたせることが，更なる教科学力の向上を目指すための有効な手段として考えられる。
- ・結果チャートを見ると，児童の豊かな体験，学習習慣，生活習慣，規範意識・自尊感情が概ね形成されているので，学力の2極化傾向防止のための学力向上に向けた授業改善などの取組により，児童の学力向上が実現しやすい状況にあると考えられる。従って，東京ベーシックドリルなどを活用し，低いスコアとなっている児童の教科学力を向上させるための取り組みを行うことが，授業改善のポイントとなる。

《チャートの特徴》

- ・このチャート図は，教科の学力と児童の学習に関する関心（児童質問紙調査）について，全国を母集団として，本校の調査結果を表したものである。内側の太線は，全国平均を表している。
- ・本校の調査結果を見ると，「教科の学力」と「児童の学習に関する関心」すべての質問領域のスコアが，全国平均または全国平均を上回っており，ほぼバランスがとれていることが分かる。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・児童が分かる楽しさを追い求め，学力が向上するためには，児童の生活習慣や学習習慣が確立していることが重要である。そのために，家庭や地域の果たす役割の大切さを説明し，保護者の意識向上を図っていく。具体的には，共感しながら子どもの思いを引き出す。認め励まし褒めて自己有用観をもたせる。読書を通して豊かな言語感覚を育む。スモールステップで行動目標を設定し課題をこなす成就感をもたせる。毅然とした態度と優しさで規範意識を高めていく。このような視点で，ねばり強く家庭・地域へ働きかけていく。